「あすなろ」便り

NO.16
2005.7.21

「各機関との連携を図る」あすなろ研修会開かれる・・６月 15 日

当日は、あいにくの雨でしたが会員 19 名の参加者がありました。専門機関から７名（厚木児童相談所・座間市教委指導課・座間市子育て支援課・民児協・座間市社協ボランティアセンター）の方々の参加をいただきました。会場は、静かな中にも「子どものために」という熱気に包まれ、各機関の理解と協力を得る良い機会となりました。

【１】心に残ったこと

①子育て支援課の意味

児童福祉法の改正で子育て支援課が、各市町村における児童相談所の窓口となり児相は、その後方支援にあたるというシステムができ上っています。行政としても敏速かつ、きめ細かな対応が要求されているということであり、虐待をはじめ子育てに関わる状況全般が一層難しくなっていることを痛感しました。

会 場 風 景

②不登校は、中学校で増加傾向

市教委の指導主事によれば、平成 16 年度現在、中学の不登校者数が、増加傾向にあり情緒や養育・非行との関わりが反映しているようだとのことです。子・親との関係維持が最大のポイントであり、担任のみに背負わせず相談員とも連携してよりオープンに接していきたいという意向でした。ここに「あすなろ」との接点が見出せるのではと思いました。

あすなろの家の麦干し

③傷の浅いうちに対応したい

民児協の方の話では、不登校（特にひきこもり）の情報はかなり大きな問題になってはじめて主任児童員さんに伝わるそうです。今「つばさ」にも「あすなろ」にも行けない人が増えてきているので、まだ傷の浅いうちに情報を得て、例えば「あすなろ」などにつないでいく必要があると訴えていました。

【２】今後への課題

子育て、教育の問題に第一線で立ち向かう（専門職の）方々と「あすなろ」がこのように一堂に会したのは初めてのことです。「あすなろ」の一人一人がささやかではあっても地道に活動継続してきたことで、この場を得ることができました。子育て支援課と市教委によれば、今後、対象者に「あすなろ」を紹介できるとのことです。ただ、（児相からは）『連携ばかりを先走りせず、何より保護者の意向を尊重してほしい』との慎重意見も出されました。また、個人情報の問題も無視できません。そんなことも踏まえつつ、「子どものために」という原点を見失わず、できるだけ壁を取り払って協力していくべきだと強く思いました。